

## (28) 歯学教育における授業モデルの検討

歯学教育FD/ICT活用研究委員会は、22年6月、8月、12月、3月の4回開催し、学士力（モデル・コアカリキュラム）の実現に求められるICT活用の授業モデルの検討を行った。

患者本位の医療と予防医学を実践できる能力を身に付けさせる授業モデルを2例検討している。

一つは、歯科疾患予防の重要性を認識させ、実際の生活の中で患者に予防ができるように指導する能力を身に付けさせるため、齲蝕の予防についてチュートリアル学習を行った上で、社会科学、生命科学などの他の分野の学習と連携させて、多面的な視点から振り返り学習を行うことで患者本位の医療ができる授業モデルとした。

二つは、グローバル化に対応した最新の医療を理解し、医療に反映させることができる能力を身に付けさせるために、世界中の医療サイトを活用してeラーニングができる授業モデルとした。

また、歯科医療教育のグローバルスタンダードに備えるためにアメリカおよびヨーロッパの歯科教育学会が提示している「Competencies of New General Dentist」、及び「Profile and Competences for the European dentist」をもとに、日本の歯科教育がグローバルスタンダードの中で十分に通用するかどうかを点検するため、アメリカおよびヨーロッパが掲げている医師のコンピテンシーについて、「コアカリキュラム、臨床実習内容、国家試験出題基準・教授要領」に当てはめて検討し、当面必要と思われる教育について指摘を試みた。その結果は、資料編【資料5】を参照されたい。なお、本委員会のWebサイトでも掲載している。